

経済・金融
フラッシュユーロ圏消費者物価(24年5月)
ー総合指数、コア指数ともに前年比で加速

経済研究部 主任研究員 高山 武士

TEL:03-3512-1818 E-mail: takayama@nli-research.co.jp

1. 結果の概要: 総合指数、コア指数ともに市場予想を上回り、前年比で加速

5月31日、欧州委員会統計局(Eurostat)は5月のユーロ圏のHICP(Harmonized Indices of Consumer Prices:EU基準の消費者物価指数)速報値を公表し、結果は以下の通りとなった。

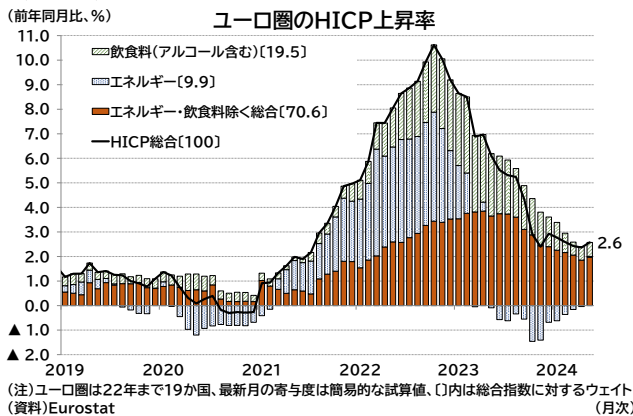
【総合指数】

- ・前年同月比は2.6%、市場予想¹(2.5%)より上振れ、前月(2.4%)から上昇した(図表1)
- ・前月比は0.2%、予想(0.2%)と一致、前月(0.6%)から低下した

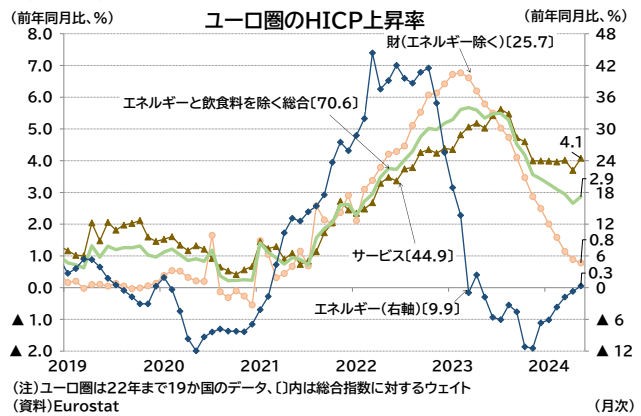
【総合指数からエネルギーと飲食料を除いた指数²】

- ・前年同月比は2.9%、予想(2.7%)から上振れ、前月(2.7%)から上昇した(図表2)
- ・前月比は0.4%、前月(0.7%)から低下した

(図表1)



(図表2)



2. 結果の詳細: サービスインフレは前年比で再び4%超に

5月のHICP上昇率³(前年同月比)は全体で2.6%となり、4月(2.4%)から上昇した。「コア部分(=エネルギーと飲食料を除く総合)」も4月の2.7%から2.9%に上昇している。コア部分は23年7月(5.5%)をピークに9か月連続で低下していたが、5月は低下に歯止めがかかった。

以下、詳細を「コア部分」「エネルギー」「飲食料(アルコール含む)」の3つに分けて見ていく。

まず、コア部分である「エネルギーと飲食料を除く総合」の内訳を見ると、「エネルギーを除く財

¹ bloomberg 集計の中央値。以下の予想値も同様。

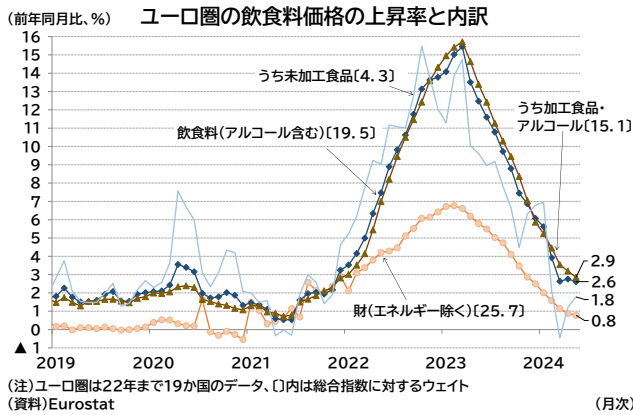
² 日本の消費者物価指数のコアコアCPI、米国の消費者物価指数のコアCPIに相当するもの。ただし、ユーロ圏の指数はアルコール飲料も除いており、日本のコアコアCPIや米国のコアCPIとは若干定義が異なる。

³ 23年からはユーロ圏20か国のデータ、22年までは19か国のデータ(以降も特に断りがない限り同様)。

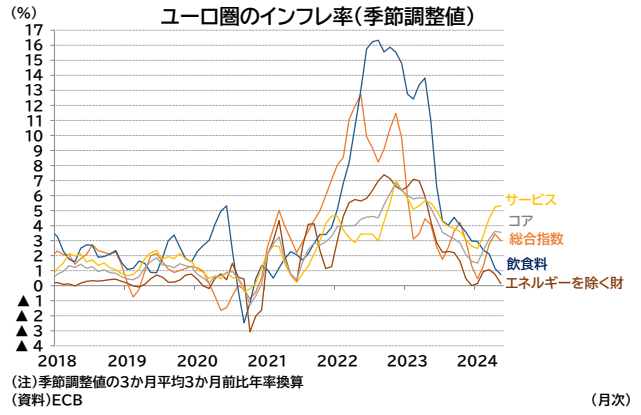
（飲食料も除く）」が3月1.1%→4月0.9%→5月0.8%と緩やかながら低下が続いている。「サービス」（エネルギーを除く）は3月4.0%→4月3.7%→5月4.1%と、再び4%台まで上昇している。前年同月比寄与度は、「財」が0.19%ポイント程度、「サービス」が1.69%ポイント程度と見られ、足もとの物価上昇の寄与はサービスが大部分を占める状況が続いている（前掲図表1）。

コア以外の部分では「エネルギー」が前年同月比で3月▲1.8%→4月▲0.6%→5月0.3%と5月は23年4月（2.4%）以来となる前年同月比プラスになった。エネルギーの前年同月比寄与度は0.04%ポイント程度と見られる。

（図表3）



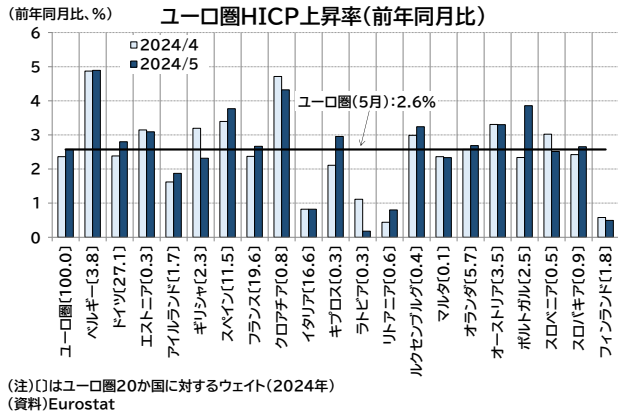
（図表4）



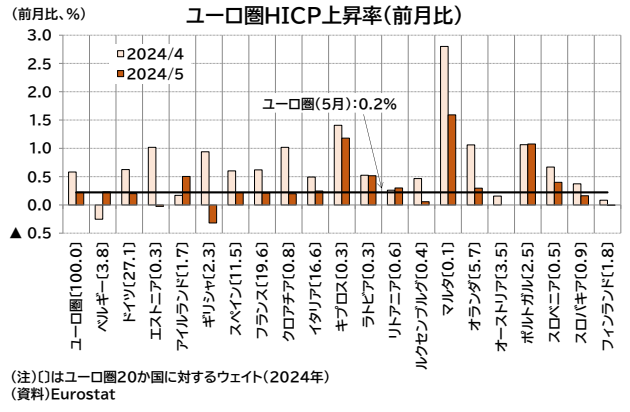
「飲食料（アルコール含む）」は、前年同月比で2.6%（4月2.8%）とやや低下したが、個々のところは2%台半ばで横ばい推移となっている（図表3）。飲食料のうち加工食品の伸び率は2.9%（4月3.2%）と低下傾向が続く一方で、未加工食品は1.8%（4月1.2%）と2か月連続で上昇している。飲食料の前年同月比寄与度は0.57%ポイント程度（4月は0.55%ポイント）と見られる。

物価上昇の勢いをECBが公表する季節調整済系列で確認すると（図表4）、3か月移動平均後の3か月前比年率で総合指数が3.0%（4月3.4%）、コアが3.6%（4月3.6%）、エネルギーを除く財が0.1%（4月0.8%）、サービスが5.3%（4月5.2%）、飲食料が0.7%（4月1.1%）となった。物価上昇の勢いは総合指数、飲食料、財は減速したが、サービスはやや加速、コアで横ばいとなった。また、総合指数、コア、サービスは2%を上回っている状況が続いている。

（図表5）



（図表6）



国別のHICP上昇率は、前年同月比で20か国中、上昇したのは11か国、残りの9か国は低下した（図表5）。また、5か国が物価目標の2%を下回っている。なお、前月比では20か国中17か国がプラスの伸び率となった（図表6）。

（お願い）本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保證するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。